

|                                  |                                    |
|----------------------------------|------------------------------------|
| 氏名<br><small>(法人にあつては名称)</small> | 三井不動産株式会社                          |
| 住所                               | 東京都中央区日本橋室町2-1-1                   |
| 計画期間                             | 平成 28 年 4 月 1 日 ~ 平成 31 年 3 月 31 日 |
| 基準年度(*1)                         | 平成 27 年度                           |

1 事業者の要件 ((1)、(2)については、特定年度(\*2)における市内に設置された全ての事業所の合計量)

|            |   |
|------------|---|
| 該当する事業者の要件 | <input checked="" type="checkbox"/> (1)原油換算エネルギー使用量(*3)が1,500キロリットル以上 (特定事業者)<br><input type="checkbox"/> (2)エネルギー起源二酸化炭素を除く物質ごとの温室効果ガス排出量(*4)が3,000トン以上 (特定事業者)<br><input type="checkbox"/> (3)特定事業者以外の事業者 |
|------------|---|

2 事業の概要

|        |  |
|--------|--|
| 事業者の業種 | 不動産業、物品賃貸業<br>(主たる事業の日本標準産業分類における細分類番号： 6911 ) |
| 事業概要   | 不動産事業を行っており、主としてオフィスビルの賃貸事業、商業施設の賃貸事業を行っています。  |

3 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下段は削減量の対基準年度比  $((a-b)/a) \times 100$  (aは基準年度の実排出量) )

| 項目               | 基準年度の実績 a   | 計画期間の目標 b                | 計画期間の実績 b                |                   |                   |                   |
|------------------|---|--------------------------|--------------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
|                  | 平成 27 年度  | 平成28~30年度(平均値)           | 平成 28 年度                 | 平成 29 年度          | 平成 30 年度          | 平成28~30年度(平均値)    |
| 温室効果ガス実排出量(*5)   | 28,670 t-CO <sub>2</sub>                            | 28,103 t-CO <sub>2</sub> | 26,701 t-CO <sub>2</sub> | t-CO <sub>2</sub> | t-CO <sub>2</sub> | t-CO <sub>2</sub> |
|                  |   | 2.0 %                    | 6.9 %                    | %                 | %                 | %                 |
| 温室効果ガスみなし排出量(*6) |   | 28,103 t-CO <sub>2</sub> | 26,701 t-CO <sub>2</sub> | t-CO <sub>2</sub> | t-CO <sub>2</sub> | t-CO <sub>2</sub> |
|                  |   | 2.0 %                    | 6.9 %                    | %                 | %                 | %                 |
| 実績に対する自己評価       | 設備更新、運用対策の継続により電気使用量が削減されたこと、排出係数の変化により6.9%の削減となった。 |                          |                          |                   |                   |                   |

- \*1 基準年度とは、温室効果ガスの抑制割合を比較する基準の年度であり、原則として特定年度(\*2)とする。なお、基準年度の温室効果ガス実排出量(\*5)については、事業活動の著しい変動等により特定年度が基準年度として適当でないときは、事業者の判断により、特定年度を含む連続した過去3か年度の平均値とすることができる。
- \*2 特定年度とは、計画期間となるべき期間の最初の年度の前年度をいう。
- \*3 原油換算エネルギー使用量とは、燃料の量並びに他人から供給された熱及び電気の量をそれぞれ発熱量に換算した後、原油の数量に換算した量の合算をいう。
- \*4 温室効果ガス排出量とは、二酸化炭素(エネルギー起源のもの及び非エネルギー起源のもの)、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン及び六ふっ化硫黄)の排出量を二酸化炭素の数量に換算したものをいう。
- \*5 温室効果ガス実排出量とは、上記(\*4)のうちエネルギー起源二酸化炭素の排出量と、それ以外の物質ごとの温室効果ガス排出量が特定事業者単位で3,000トン以上のものの排出量の合算をいう。
- \*6 温室効果ガスみなし排出量とは、上記(\*5)に対して環境価値(\*8)に相当する温室効果ガスの削減量等を調整したものをいう。なお、環境価値が活用されないときの温室効果ガスみなし排出量は、温室効果ガス実排出量と等しくなる。

(2) 事業分類ごとの原単位(\*7)の抑制に関する目標の達成状況 (※任意記載)

(※原単位の下段は削減量の対基準年度比  $((a-b)/a) \times 100$ )

| 事業分類               | 基準年度の実績 a  | 計画期間の目標 b          | 計画期間の実績 b |          |          |                    |
|--------------------|--|--------------------|-----------|----------|----------|--------------------|
|                    | 平成 27 年度   | 平成28~30年度<br>(平均値) | 平成 28 年度  | 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 平成28~30年度<br>(平均値) |
| 貸事務所業              | 0.1235   | 0.121              | 0.1151    |          |          |                    |
|                    |  | 2.0 %              | 6.8 %     | %        | %        | %                  |
| 不動産賃貸業             | 0.08295  | 0.08129            | 0.08102   |          |          |                    |
|                    |  | 2.0 %              | 2.3 %     | %        | %        | %                  |
|                    |  |                    |           |          |          |                    |
|                    |  | %                  | %         | %        | %        | %                  |
| 原単位の指標及び実績に対する自己評価 | 基準年度および報告年度における原単位の分母(稼動月考慮床面積)に変動がないことから、温室効果ガス排出量の結果に同じ。 |                    |           |          |          |                    |

(3) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

|  |
|--|
| <p>事業所の状況に応じ、以下の措置を実施している</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・照明器具(一部)のLED化(高効率型機器の導入)</li> <li>・ファンコイルユニット一部更新</li> <li>・共用部空調、換気設備の運転時間、照明点灯時間見直し、減灯によるCO2削減</li> <li>・平日昼間のバックヤードエレベータの間引き運転</li> <li>・給排気ダクトの清掃</li> <li>・バックヤード照明・空調スイッチへの省エネ啓発シール貼付とON/OFF管理の徹底</li> <li>・テナント会議時に具体的な目標や達成状況を提示し、省エネ対策への協力を依頼</li> <li>・テナントの改装、機器更新時における高効率型機器の導入依頼</li> </ul> |
|--|

(4) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況(環境価値(\*8)の活用等)

|             |
|-------------|
| <p>特になし</p> |
|-------------|

4 その他の取組の実施状況

|  |
|--|
| <p>事業所の状況に応じ、以下の取組を継続実施しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入居テナントの意識啓発</li> <li>・クールビルの推進</li> <li>・廃棄物の分別、計量による廃棄物量の適正把握</li> <li>・資源ごみのリサイクル推進</li> <li>・環境省主催のライトダウンキャンペーン参加</li> <li>・アルカリイオン水使用による洗剤の削減</li> </ul> |
|--|

\*7 原単位とは、温室効果ガス排出量を生産量、延べ床面積等の当該排出量と密接な関係を持つ値で除したものをいう。

\*8 環境価値とは、ワットワット制度等により、温室効果ガスの排出削減等を行うプロジェクトを通じて生成される温室効果ガスの削減量等をいう。なお、温室効果ガスみなし排出量(\*6)の調整対象となる環境価値は市内分とし、市長が認めるものに限る。